

**【特徴】**

白血病、悪性リンパ腫、神経芽腫や軟部肉腫などの固形腫瘍、および脳腫瘍に対する集学的治療を行っており、小児悪性腫瘍の治療ではわが国でも有数の施設である。同種造血幹細胞は毎月1-3例実施している。

**【研修目標】**

## 1. 一般目標

小児に多い種々の血液疾患、悪性腫瘍、免疫異常症、膠原病などを担当医として経験し、診断、治療法、病態について学ぶ。また、白血病などに対する造血幹細胞移植も経験し、GVHDなど移植免疫についても理解できることを目標とする。

## 2. 行動目標

- (1) 日常的な血液疾患である貧血、血小板減少、白血球減少と増加、出血傾向などについて、診断、治療ができる。
- (2) リンパ節腫大、肝腫大、脾腫、腹部腫瘤などについて鑑別診断できる。
- (3) 頻度の高い血管腫、リンパ管腫、のう腫を診断できる。
- (4) 骨髓塗抹標本、単純レ線、LDH isozyme、VMA、HVA、AFP、NSE、CEA、ムラミダーゼ活性を指示し解釈できる。
- (5) 細胞表面および細胞質内抗原、細胞化学の結果から白血病の病型診断ができる。
- (6) 脳腫瘍を含むおもな小児がんの鑑別診断と病期診断ができる。
- (7) おもな抗がん剤の作用機序、副作用、晩期合併症について説明できる。
- (8) 造血幹細胞移植の適応、方法、合併症、晩期合併症について説明できる。
- (9) GVHDの症状、病態、治療法について述べることができる。
- (10) 処置時の疼痛、がん疼痛などに対する疼痛緩和ができる。
- (11) 緩和ケアの方法について説明できる。
- (12) 日和見感染症の診断と治療ができる。
- (13) 輸血の適応、副作用について説明できる。
- (14) 臨床試験について説明できる。
- (15) 医学論文をエビデンスレベルを判断しながら批判的に読み、必要な医学情報を取捨選択できる。
- (16) 放射線治療の適応、副作用、晩期合併症について説明できる。
- (17) 特に悪性腫瘍患者とその家族の精神状態を把握し、そのニーズに適切に対処することができる。

**【方略】**

- (1) 上級医とともに患者とその家族への病状説明を行う。
- (2) 上級医とともに患者の診察を行い、検査計画、治療計画を立案する。
- (3) 担当した疾患とその治療法について、教科書を読み理解する。
- (4) 使用予定の抗がん剤について、教科書を読み理解する。
- (5) 輸血、日和見感染症の予防と治療などの支持療法について、教科書を読み理解する。
- (6) 上記の点について、不明な点を上級医に質問し説明を受ける。
- (7) 症例ごとに適切な治療法を様々な情報ソースからのエビデンスに基づいて決定する。
- (8) 回診、症例カンファレンスで担当症例について議論し、疾患とその治療法について理解を深める。

- (9) 抄読会に参加し、英語論文を紹介する。
- (10) 各種研究会、学会での発表を行い、少なくとも1編の論文報告を行う。
- (11) 前述の目標の各項目について到達度を確認する。

**【評価】**

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

**【見学等問い合わせ先】**

小児血液腫瘍科部長 原 純一